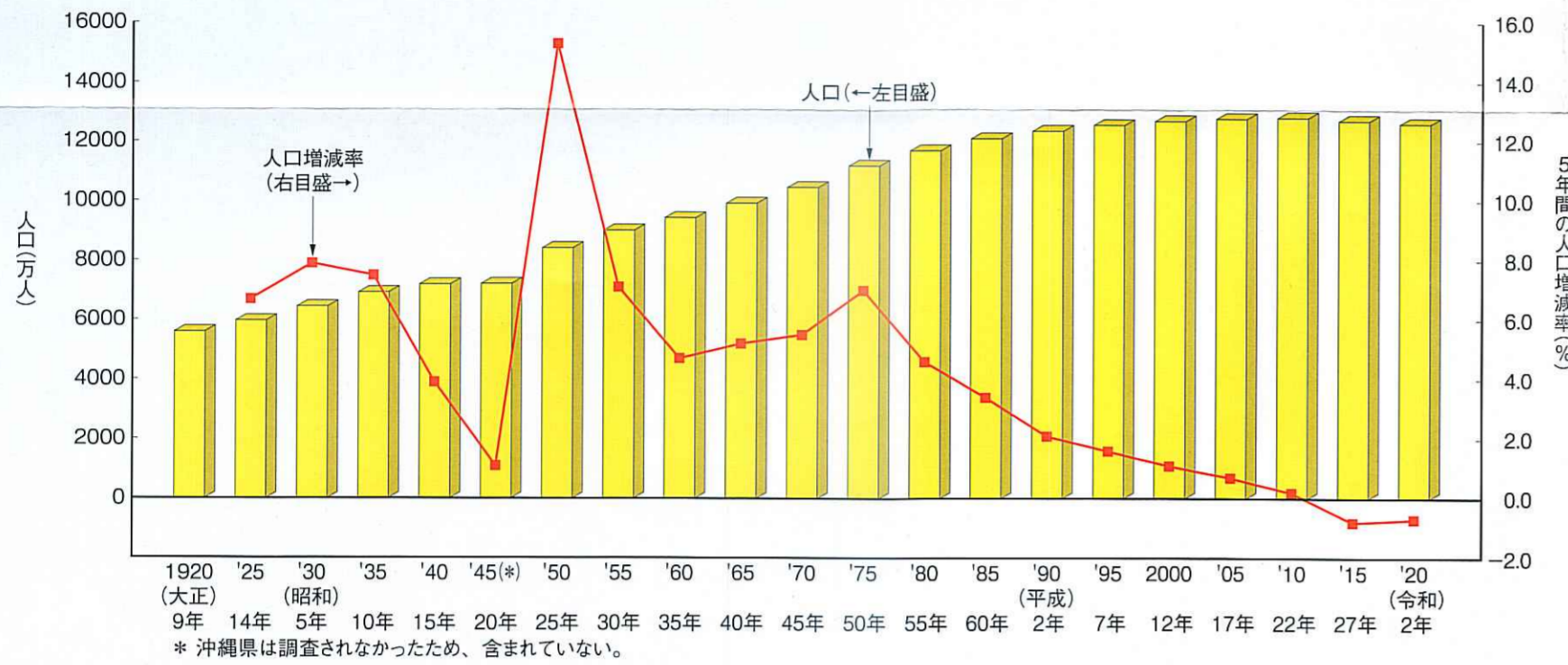


国勢調査 2020 国勢調査でわかる人口の増減

この地図は、全国の市区町村ごとに2015年(平成27年)から2020年(令和2年)までの5年間における人口の増減率を色で表したものです。

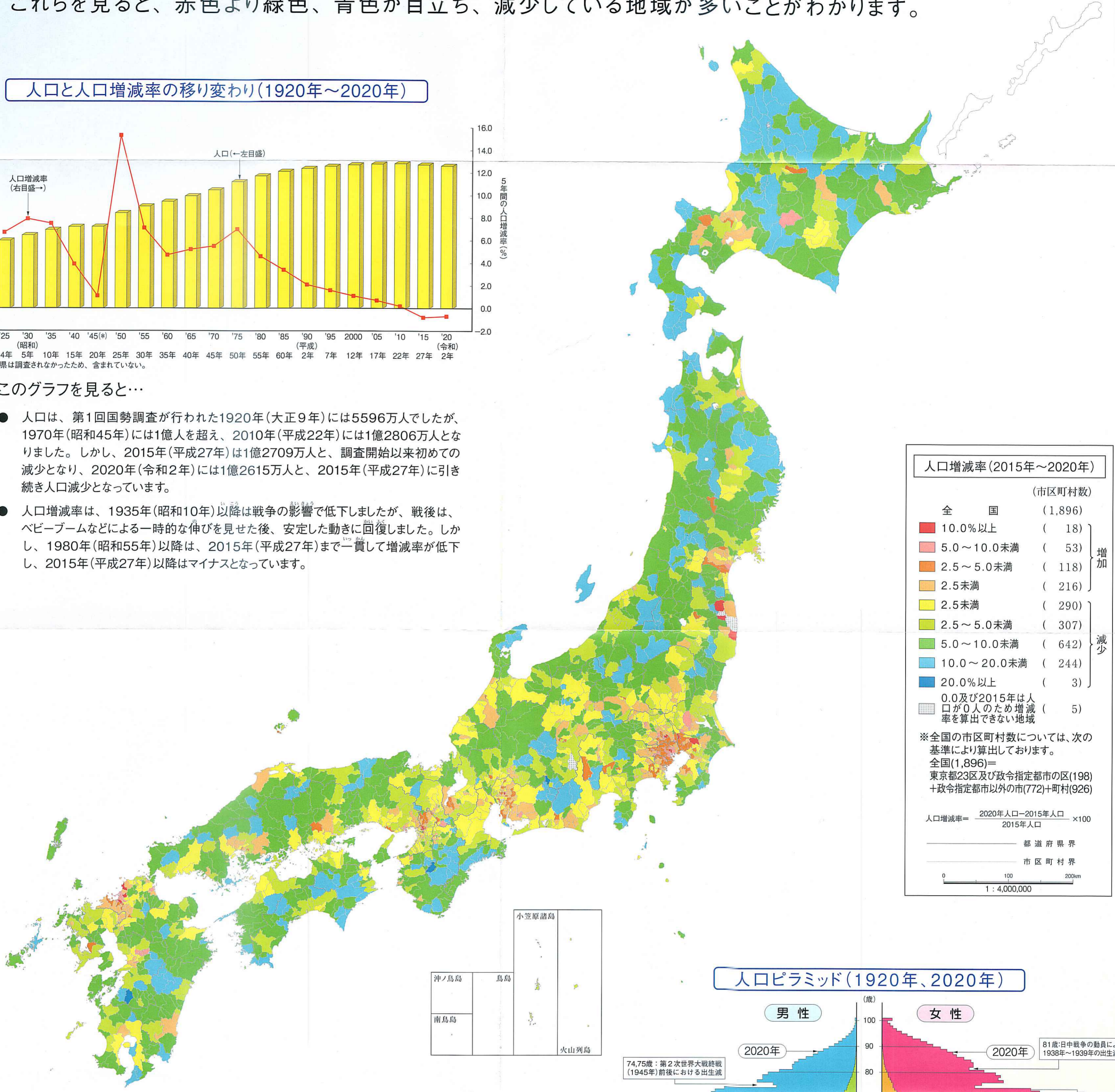
人口が増えている市区町村ほど濃い赤色になり、人口が減っている市区町村ほど濃い青色になっています。これを見ると、赤色より緑色、青色が目立ち、減少している地域が多いことがわかります。

人口と人口増減率の移り変わり(1920年~2020年)



このグラフを見ると…

- 人口は、第1回国勢調査が行われた1920年(大正9年)には5596万人でしたが、1970年(昭和45年)には1億人を超え、2010年(平成22年)には1億2806万人となりました。しかし、2015年(平成27年)は1億2709万人と、調査開始以来初めての減少となり、2020年(令和2年)には1億2615万人と、2015年(平成27年)に引き続き人口減少となっています。
- 人口増減率は、1935年(昭和10年)以降は戦争の影響で低下しましたが、戦後は、ベビーブームなどによる一時的な伸びを見せた後、安定した動きに回復しました。しかし、1980年(昭和55年)以降は、2015年(平成27年)まで一貫して増減率が低下し、2015年(平成27年)以降はマイナスとなっています。



人口増減率(2015年~2020年)		(市区町村数)
全 国		(1,896)
10.0%以上	増加	(18)
5.0~10.0未満		(53)
2.5~5.0未満		(118)
2.5未満		(216)
2.5未満		(290)
2.5~5.0未満	減少	(307)
5.0~10.0未満		(642)
10.0~20.0未満		(244)
20.0%以上		(3)
0.0及び2015年は人口が0人のため増減率を算出できない地域		(5)

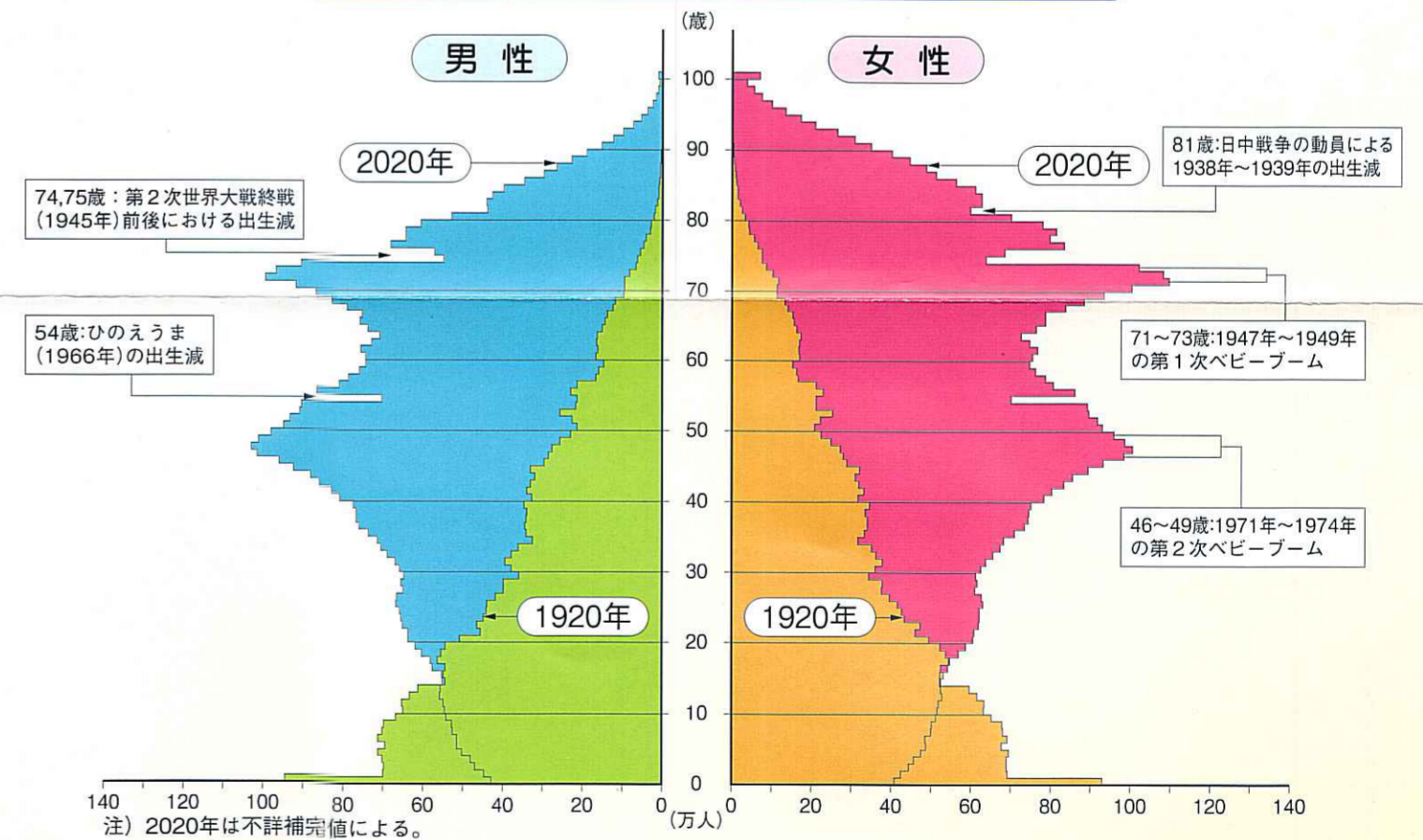
※全国の市区町村数については、次の基準により算出しております。
 全国(1,896)＝東京都23区及び政令指定都市の区(198)＋政令指定都市以外の市(772)＋町村(926)

人口増減率＝ $\frac{2020年人口-2015年人口}{2015年人口} \times 100$

— 都道府県界
 — 市区町村界

0 100 200km
 1 : 4,000,000

人口ピラミッド(1920年、2020年)



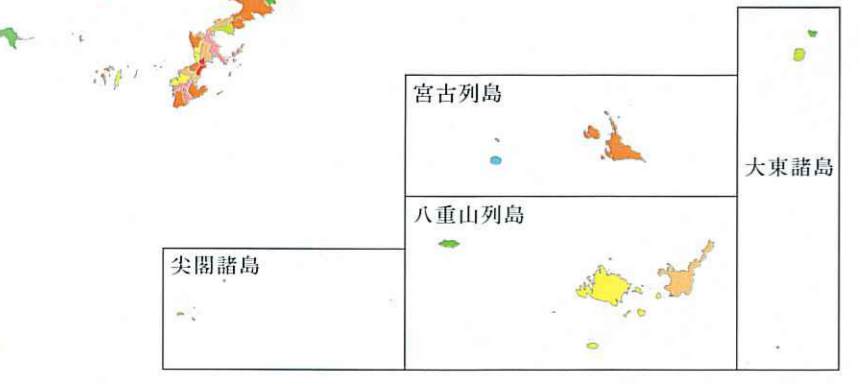
このグラフを見ると…

- 第1回国勢調査が行われた1920年(大正9年)には、それまでの高出生率、高死亡率を反映して若い年齢ほど人口が多く裾野の広い、正に「ピラミッド」のような形でした。
- 2020年(令和2年)には、出生率と死亡率の低下という大きな流れの中で、第1次及び第2次ベビーブームによる、71~73歳及び46~49歳をピークとする2つのふくらみを持ち、その下がすばまった細長い「つぼ」のような形になっています。



国勢調査って何??

国勢調査は、我が国に住んでいるすべての人を対象とする国の最も基本的な調査で、国内の人口や世帯の実態を明らかにするため、1920年(大正9年)から5年ごとに行われています。調査の結果からは、人口や世帯についてのいろいろなことがわかります。それを過去の結果とあわせてみると、人口の移り変わりなどをすることもでき、また未来の予測にも役立ちます。



センサスくんともらいちゃんは「国勢調査」のイメージキャラクターです。都道府県市区町村境界は「国土数値情報(行政区画及び湖沼データ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html) を加工して作成しています。